

発行元
東京新聞
南千住東口専売所
5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
090-2657-0300

すまいるたん

汐入



第76号
平成20年
7月13日

一期一会 心の語録

「無理せず、休んでも大丈夫。気楽に参加していただければ」

7号 25年の歴史、徳寿大学

「今は、お客さんが来ないから、早く閉める。早く閉めるからお客さんも来ない、悪循環だよ。」

10号 新開地と共に歩んだ、

小林マツさん96歳

「お客様と対話してカウンセリングをして納得いただいた上でお買い上げしていただく」

11号 納得、満足の

ビューティサロン名久井

「音楽によって、幼少期に慣れ親しんだ風景など思い出することで認知症などの加齢化が止まることのお手伝いができたら」

12号 オカリーナを聴きにいらっしやいませんか

「子供に食べさせられない物は出さない。自分が食べたい物を出したい」

15号 すべて手作りの店

あいるとんかふえ

「粹で売り、粹で買ってもらう。」

16号 粹を売る、酉の市

熊手屋 いがらし

「肉が嫌いな子供が食べられるようになつた」17号 肉が自慢！

ジョイフル三ノ輪食彩「三華」

「植物と一緒にだと自然と疲れも忘れる」

18号 三ノ輪橋を支える人々

荒川バラの会

「うどん粉と片栗粉の差、粗目と砂糖の差のように滑らかで柔らかい」

21号 ご利益はつるつるな肌、弁天湯

「お菓子から健康を導きたい」

23号 昔、懐かしい味、きなこ棒・あんこ玉から健康を

宇佐見製菓

「ご必要な物は誠心誠意ご用意致します。」

28号 創業大正六年、和の心、ハレの日に

近江屋呉服店

「気品よく、透明感のある女形を目指しております。」

29号 客席一同応援団

流し目のスナイパー 竜 小太郎

「お姉さんは名プロデューサーだったのよ。」(ひばりさんのお母さんさんの妹)

30号 美空ひばりさんに捧げた青春

西村克子さん

「来て下さったお客様の100人に1人でも感動していただけたらいいのです。魂が叫ぶ舞台にしたいのです。」

31号

魂が叫ぶ!!芸術祭大賞受賞

甲斐京子の世界

「国産車に乗っている人は外国製の自転車には乗れないって言っているよ。」

32号 アフターケアは万全 自転車職人、

(有)田上モーターズ

「生まれた赤ちゃんのオギャーの泣き声は、ラの音なんです。オーケストラの音合わせも、世界共通のラの音なんですよ。」

33号 音楽療法で 心と体のリハビリ

佐藤ピアノ教室

「献立表は、いりません。市場の様子を見てから考えます。おかずのレパートリーは400種類はありますよ。」

34号 5000円の宅配弁当、

(有)瑞光給食センター

「試行錯誤の末、できたものです。」

35号 毎日、自家焙煎

都電ブレンドの『ぱぱ・のえる』

「気軽にエステを楽しんでいただきたい。」

36号 癒しの百貨店

カット&エステ やじま

「色で一生苦労するんだなあと父は言っていました。」

37号 はんなりと、つまみかんざし職人

戸村絹代さん

「大東京の名前は、東京市から付けたようですよ。」

38号 3代続く江戸前寿司

大東京

39号 変革して前進

吉田喜一教授

発行して2年、いつもこ

愛読ありがとうございます。

これからも一期一会を大切に会いをお届け致します。

